

# 令和5年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立田無小学校

## ●全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる	86.7%	文章を要約したものはどれか選択する問題の正答率が高かった。文章の中から大切な言葉を探し出すことができている。また、漢字を文の中で正しく使う問題の正答率も高かった。基礎的な学力は身に付き始めている。朝学習の時間などを使った、反復練習による基礎学力向上への取り組みは、これからも継続していく。	都平均よりも正答率ももっとも低かった問題は、インタビューで聞き取った事柄から、分かったことまとめて書くという記述式問題であった。誤答の内訳は、無解答が一番多かった。「聞き取ったことをまとめて終わり」という従来型の授業を脱却し、聞き取ったことから自分が考えたことを発信していく授業スタイルを目指していく。 選択肢の中の間違った情報を見落としているミスも目立った。これからは、本文と照らし合わせながら、丁寧に考えさせる授業が必要である。
	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	87.8%		
	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	56.1%		
	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	58.2%		
算数	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	81.6%	「Dデータの活用」の正答率が、全国平均を上回っている。必要な情報を表から読み取り、表のデータを根拠に問題を解決する力が身に付いている。理科や社会、総合的な学習の時間など、算数以外の教科でも、表やグラフを積極的に、活用させていることが結果として表れてきている。これからも継続して、力を定着させていく。	「B図形」の正答率が都平均と比べて低かった。台形の意味や性質について理解しているかを見る問題では、向かい合った「1組」の辺が平行であるという特徴のうち、「1組」ということを失念している児童が多かった。学習に出てくる度に定義を確かめ、確実に定着を図る授業づくりが必要である。 テープを切ってできた三角形は高さが同じであるということが分からず、三角形の面積の大小を問う問題の正答率が低かった。既習事項を踏まえながらも、応用的な場面を取り上げた授業づくりが必要である。
	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	69.4%		
	テープを2本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	55.1%		
	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	18.4%		